日記をめぐる静かな思索が、
瑞々しく素直な文体でひらかれるエッセイ！

これは，ただ「日記の書き方」を教えてくれるだけの本ではありません。佐々木さん自身の過去の日記を振り返りながら、日記とは何なのか、なぜ日記を書くのか、何を書いて何を書かないのか…　経験や考えを、まっすぐな言葉で綴っています。

自分の毎日をもう少し大切に眺めて，振り返ってみたくなるそんな一冊です。

試し読みは、佐々木さんがジェーン・スーさんに「この人たぶん文章の仕事もした方がいいと思いますよ」と言われたエピソード〈100万円の犬〉(p.92)がオススメです！

担当営業M

『日記という運命』佐々木里菜　イラスト：ナガタニサキ　定価1,870円（税込）　産業編集センター刊